

「今、何の病気が流行しているか！」

(川崎市感染症発生動向調査事業—令和4年第40週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか！（令和4年第40週）」を作成しましたのでお知らせします。

令和4年第40週（令和4年10月3日から令和4年10月9日まで）

第40週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）手足口病 3）ヘルパンギーナでした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.89人と前週（1.92人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

手足口病の定点当たり患者報告数は1.75人と前週（2.32人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は0.72人と前週（0.62人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

今週のトピックス

“知っていますか？～エンテロウイルスD68による感染症～”について取り上げました。

エンテロウイルスは、風邪や胃腸炎等の原因となるウイルスで、ウイルスの型によって様々な症状を引き起こします。中でも、エンテロウイルスD68は、感染すると発熱や咳等の症状が現れ、多くは軽症ですが、時に喘息様発作を起こすことが知られています。また、同じエンテロウイルス属のポリオと同様に弛緩性麻痺を起こすこともあります。

我が国では、平成22年及び27年に全国で患者数が増加し、同時期に喘息発作による入院数の増加や、急性弛緩性麻痺の患者の発生が多くみられました。エンテロウイルスD68は、2～3年周期で流行がみられ、今年には既に7月から米国で感染者数が増加しています。感染すると、アレルギーの有無にかかわらず、喘息様発作を起こすことがあるため、症状の変化に注意が必要です。

川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関（小児科定点37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設）等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

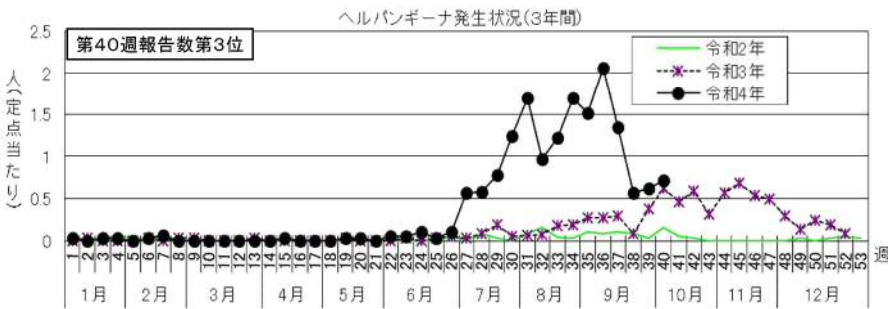
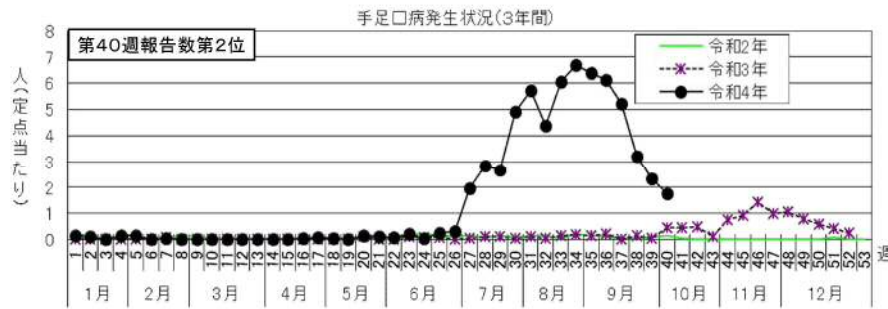
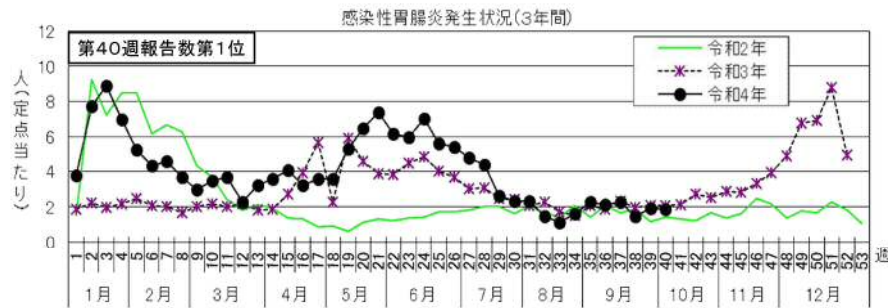
連絡先 川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 野木
電話044（200）2446
川崎市健康安全研究所 三崎
電話044（276）8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年10月3日（月）～令和4年10月9日（日）〔令和4年第40週〕の感染症発生状況

第40週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) ヘルパンギーナでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.89人と前週（1.92人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 手足口病の定点当たり患者報告数は1.75人と前週（2.32人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は0.72人と前週（0.62人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



知っていますか？～エンテロウイルスD68による感染症～

エンテロウイルスは、風邪や胃腸炎等の原因となるウイルスで、ウイルスの型によって様々な症状を引き起こします。中でも、エンテロウイルスD68は、感染すると発熱や咳等の症状が現れ、多くは軽症ですが、時に喘息様発作を起こすことが知られています。また、同じエンテロウイルス属のポリオと同様に弛緩性麻痺を起こすこともあります。

我が国では、平成22年及び27年に全国で患者数が増加し、同時期に喘息発作による入院数の増加や、急性弛緩性麻痺の患者の発生が多くみられました。エンテロウイルスD68は、2～3年周期で流行がみられ、今年には既に7月から米国で感染者数が増加しています。感染すると、アレルギーの有無にかかわらず、喘息様発作を起こすことがあるため、症状の変化に注意が必要です。

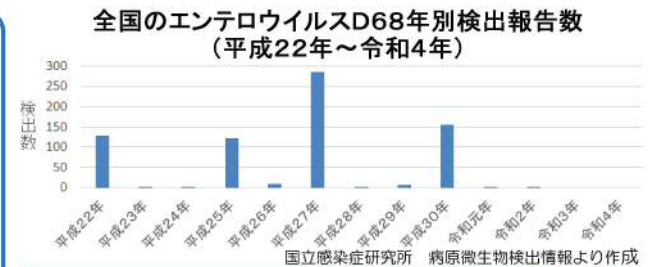
エンテロウイルスD68感染症とは？

【感染経路】
飛沫感染、接触感染

【症状】

- ・発熱、鼻汁、咳、喘息様発作、肺炎、弛緩性麻痺など
- ・特に喘息の既往がある小児は重症化の可能性あり
- ・麻痺の前に発熱を認める場合、発熱後6日程度で麻痺が出現

【予防対策】
手洗い、咳エチケットなど



エンテロウイルスD68による急性弛緩性麻痺は、ポリオウイルスと同様に、ウイルスが脊髄の一部に入り込み、手足などに麻痺が現れます。約80%の患者に様々な筋力低下が残るとされています。

